

「令和元年度 教員免許状更新講習」

1 趣 旨

教員が体験学習の意義について理解するとともに、児童の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な体験活動の指導技術を身に付ける。また、学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に体験活動を取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

2 事業の概要

- (1) 期 日 令和元年9月21日(土)～23日(月)【2泊3日】
- (2) 参加者 12名(島根県10名、鳥取県2名)
- (3) 研修内容及び講師

日付	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
9/21(土)		受付	開講式	講義①	休憩	講義②	休憩	講義③					
9/22(日)		講義④	実習①			休憩	実習②			休憩	情報交換会		
9/23(月)		実習③			休憩	履修認定試験	閉講式						

講義①「学校教育活動と体験的な学習・体験活動」(1時間30分)

講師 安来市立第一中学校校長 村木 隆夫 氏

講義②「子どもの成長期における体験活動の重要性」(1時間30分)

講師 鳥取短期大学幼児教育保育学科准教授 近藤 剛 氏

講義③「自然体験活動の意義(目的)と子どもたちへの効果」(2時間30分)

講師 鳥取短期大学幼児教育保育学科准教授 近藤 剛 氏

講義④「集団宿泊活動の現状と効果的な指導法」(1時間)

講師 国立三瓶青少年交流の家 企画指導専門職 武田 尚志

実習①「ねらいに応じた野外炊事の理解と実際」(3時間30分)

講師 国立三瓶青少年交流の家 企画指導専門職 武田 尚志

実習②「学級経営に活かせる体験活動の指導法」(3時間30分)

講師 国立江田島青少年交流の家 次長 杉本 克之 氏

実習③「子ども達がワクワクする自然観察の技術」(3時間)

講師 島根県立三瓶自然館「サヒメル」学芸課課長 井上 雅仁 氏

3 事業の内容

①プログラムデザインと企画のポイント

本事業は教員免許状更新講習の選択領域「教科指導・生徒指導その他教育の充実に関する事項」の履修を目的としている。主な対象は小学校教諭で、2泊3日の日程を通して、18時間分の講習を受講することができる。体験活動への理解がより深まるよう、講習の内容には、講義形式に加え、実習など、体験的な活動も多く取り入れた。

②運営のポイント

集団宿泊活動や自然体験活動を提供する施設の長所を活かし、野外炊飯や自然観察など、実際の活動を通して、指導のポイントや安全上配慮すべきことが学べるよう、講習内容を計画した。また、受講者がそれぞれの職場に持ち帰り、日常の指導に活かすことができる内容を重視し、人間関係づくりのためのアクティビティ体験や理論の学習を取り入れた。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

	満足	やや満足	やや不満	不満
講習の内容・方法	92	8	0	0
新しい知識・技術の習得について	92	8	0	0
運営面	92	8	0	0

(%) (2) 参加者の声

- ・講義の後に体験があったので、より分かりやすかった。
- ・新しいことやもってかえってやってみようと思える講習で実り多かった。

5 成果と課題

《成果》

- ・昨年度の受講者の感想を参考に、体験活動と、それに関わる理論を両方学べる研修を取り入れた。その結果、受講者から、多くの肯定的な意見を得ることができた。
- ・少人数ということもあり、受講者同士が宿泊やグループワーク、野外炊飯などを通して、次第に打ち解け、笑顔や会話も日に日に増えていった。受講者自身が自らの体験を通して、集団宿泊活動や自然体験活動への理解を、より深めることができたのではないかと考える。

《課題》

- ・事後アンケートでは、12人中5人が「8月の実施が適当である」と回答しており、今後の実施時期については、所内で検討していきたい。
- ・本年度は、島根県の教員が10名、鳥取県の教員が2名の参加であった。そのうち10名の参加者が上司からの紹介で国立三瓶青少年交流の家での実施を知ったという回答であった。来年度へ向けて、広報の仕方も考えていく必要がある。



体験学習



野外炊飯



グループワーク

(担当：企画指導専門職付 福田 将大)